



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年7月27日

上場取引所 東

上場会社名 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社
コード番号 8242 URL <http://www.h2o-retailing.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 鈴木 篤

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員

(氏名) 森 忠嗣

TEL 06-6365-8120

四半期報告書提出予定日 平成28年8月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	213,958	△0.6	3,006	△5.7	2,110	△38.6	3,102	△48.5
28年3月期第1四半期	215,279	68.2	3,189	10.5	3,434	1.2	6,025	△49.6

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 △953百万円 (—%) 28年3月期第1四半期 1,512百万円 (△90.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	25.15	25.02
28年3月期第1四半期	48.85	48.62

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	583,252	249,474	42.6
28年3月期	597,041	252,587	42.1

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 248,443百万円 28年3月期 251,554百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	17.50	—	17.50	35.00
29年3月期	—				
29年3月期(予想)		17.50	—	17.50	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	448,000	1.5	7,800	3.2	8,000	3.6	2,900	△54.2	23.50
通期	930,000	1.6	25,000	4.9	24,900	8.0	14,100	0.3	114.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ー社(社名)ー、除外 ー社(社名)ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 当第1四半期連結会計期間より、「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を適用しております。詳細は、添付資料P. 5「2. (4)追加情報」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年3月期1Q	125,201,396 株	28年3月期	125,201,396 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

29年3月期1Q	1,817,980 株	28年3月期	1,819,577 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期1Q	123,382,399 株	28年3月期1Q	123,331,502 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載の連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
4. 補足情報	13
株式会社阪急阪神百貨店の業績について	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループでは、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「百貨店事業」、「スーパーマーケット事業」、「イズミヤ事業」、「その他事業」の4区分から、「百貨店事業」、「食品事業」、「不動産事業」、「その他事業」の4区分に変更しております。

なお、前年実績につきましては、変更後の報告セグメント区分により作成することは実務上困難であります。したがって、セグメント区分に変更がない百貨店事業セグメントを除くセグメントについては、前年同期比の記載をしておりません。

各セグメントの概況は次のとおりです。

①百貨店事業

阪急うめだ本店では、本年3月に改装オープンした3階、4階の婦人服売場がファッション感度の高いお客様に支持されるとともに、広域からの集客力強化につながりました。また、阪急メンズ大阪では、高額品が好調に推移したことによる客単価の上昇が、売上高の増加に寄与しました。以上の結果、阪急メンズ大阪を含めた阪急本店の売上高は48,384百万円、前年同期比100.5%となりました。

阪神梅田本店では、建て替え工事の影響により客数は伸び悩みましたが、定評のある食品の売上が前年並みで推移した結果、売上高は12,856百万円、前年同期比95.6%となりました。

以上の結果、支店を含めた百貨店事業全体の売上高は95,429百万円、前年同期比99.0%となりました。また、阪急本店の改装などの影響により人件費や販促費が増加しましたが、事業全体で経費削減に取り組んだ結果、営業利益は2,381百万円、前年同期比は75.8%、予想比では96.6%となりました。

《百貨店事業の業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	95,429	99.0
営業利益	2,381	75.8

②食品事業

株式会社阪急オアシス(平成28年6月1日株式会社阪食より商号変更)では、「みんなで創るあなたの市場」をスローガンに掲げ、当期も大阪府内に2店舗を出店するなど、事業規模の拡大を進めてまいりました。

また、イズミヤ株式会社では、食品プロトタイプ店舗への改装を2店舗で実施するなど、食品を中心に営業力の強化を図るとともに、阪急オアシスとの共同商品調達、惣菜製造工場の共用などによる商品原価の引き下げや、様々なコスト削減施策を進めてまいりました。

食品製造会社におきましても、株式会社阪急フーズや株式会社阪急ベーカリー、株式会社デリカ・アイフーズの売上高が増加した結果、食品事業全体の業績は以下のとおりとなりました。

《食品事業の業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	103,261	—
営業利益	1,079	—

③不動産事業

株式会社阪急商業開発では、運営する「モザイクモール港北」にて、店舗の入れ替えに伴い一部で空き区画が発生した影響などもあり、減収となりました。

一方で、株式会社カンソーでは、遊戯文化部門などの事業譲渡により減収となりましたが、コスト削減による経営効率の向上に取り組み、営業利益は前年同期実績を上回りました。

以上の結果、不動産事業全体の業績は以下のとおりとなりました。

《不動産事業の業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	2,285	—
営業利益	605	—

④その他事業

株式会社大井開発では、運営する「阪急大井町ガーデン」のホテル部門が前年度に引き続き高い客室稼働率を維持しました。また、株式会社ペルソナでは、本年1月に発行した「ソレーナSTACIAカード」の会員数が順調に増加しております。

専門小売店業態におきましては、株式会社エフ・ジー・ジェイや株式会社カルネ、株式会社阪急B&Cプランニングが新規出店などにより事業規模の拡大を進め、これらの取り組みの結果、その他事業全体の業績は以下のとおりとなりました。

《その他事業の業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	12,981	—
営業利益	2,240	—

以上の結果、当第1四半期連結累計期間(平成28年4月1日～平成28年6月30日)における連結売上高は213,958百万円、前年同期比99.4%、営業利益は3,006百万円、前年同期比94.3%となりました。また、為替予約評価損801百万円を営業外費用に計上したことなどにより、経常利益は2,110百万円、前年同期比61.4%となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は3,102百万円となりましたが、前年同期に投資有価証券売却益7,361百万円を特別利益に計上したため、前年同期比は51.5%となりました。

《連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	213,958	99.4
営業利益	3,006	94.3
経常利益	2,110	61.4
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,102	51.5

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は583,252百万円となり、前連結会計年度末に比べ13,788百万円減少しました。これは主に、投資有価証券が含み益の減少などにより5,914百万円減少したこと、現金及び預金が法人税の納付などにより7,308百万円減少したことによるものです。

負債合計は333,778百万円となり、前連結会計年度末から10,675百万円減少しました。これは、支払手形及び買掛金が6,785百万円、未払法人税等が4,897百万円、それぞれ減少したことなどによるものです。

また、純資産は249,474百万円と前連結会計年度末から3,113百万円減少しました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益3,102百万円の計上と配当金の支払2,159百万円により、利益剰余金が943百万円増加した一方、投資有価証券の含み益の減少によりその他有価証券評価差額金が3,756百万円減少したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は42.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期の連結業績はほぼ想定通り推移しており、第2四半期累計及び通期の予想については、平成28年5月12日に公表しました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、当第1四半期連結会計期間において、新規設立に伴い、株式会社エイチ・ツー・オー 食品グループ、株式会社エイチ・ツー・オー スマイルを連結の範囲に含めております。また、当第1四半期連結会計期間において、株式会社阪神みどり会は、株式会社阪急友の会（株式会社阪急阪神百貨店友の会に商号変更）と合併したため、連結子会社ではなくなっております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	48,521	41,212
受取手形及び売掛金	46,785	48,137
商品及び製品	33,959	35,837
仕掛品	186	212
原材料及び貯蔵品	1,361	1,229
繰延税金資産	4,910	4,022
未収入金	4,710	3,603
その他	5,949	6,563
貸倒引当金	△814	△775
流動資産合計	145,570	140,043
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	113,755	113,432
機械装置及び運搬具（純額）	3,625	3,663
土地	124,341	123,057
建設仮勘定	834	246
その他（純額）	10,904	10,996
有形固定資産合計	253,461	251,396
無形固定資産		
のれん	5,997	5,844
その他	11,733	11,874
無形固定資産合計	17,730	17,718
投資その他の資産		
投資有価証券	97,513	91,598
長期貸付金	3,993	3,985
差入保証金	71,191	70,446
繰延税金資産	8,945	8,880
その他	1,868	1,841
貸倒引当金	△3,232	△2,657
投資その他の資産合計	180,279	174,094
固定資産合計	451,471	443,209
資産合計	597,041	583,252

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	62,235	55,449
1年内償還予定の社債	2,100	2,100
1年内返済予定の長期借入金	10,077	9,154
未払金	13,671	10,742
リース債務	963	764
未払法人税等	5,807	910
繰延税金負債	0	2
商品券	21,785	22,869
賞与引当金	5,048	3,998
役員賞与引当金	148	61
店舗等閉鎖損失引当金	295	298
ポイント引当金	2,097	2,274
資産除去債務	383	382
その他	32,610	38,388
流動負債合計	157,225	147,398
固定負債		
社債	16,600	16,550
長期借入金	100,879	100,755
繰延税金負債	20,622	19,120
再評価に係る繰延税金負債	265	265
役員退職慰労引当金	205	212
商品券等回収引当金	3,183	3,236
退職給付に係る負債	20,463	20,337
長期未払金	268	232
リース債務	7,535	7,595
長期預り保証金	12,103	12,047
資産除去債務	2,576	3,452
その他	2,524	2,575
固定負債合計	187,228	186,380
負債合計	344,454	333,778
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,796	17,796
資本剰余金	92,783	92,782
利益剰余金	115,820	116,764
自己株式	△3,387	△3,384
株主資本合計	223,013	223,958
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	30,333	26,576
繰延ヘッジ損益	185	△9
土地再評価差額金	125	125
為替換算調整勘定	182	△13
退職給付に係る調整累計額	△2,285	△2,194
その他の包括利益累計額合計	28,541	24,484
新株予約権	1,028	1,026
非支配株主持分	3	3
純資産合計	252,587	249,474
負債純資産合計	597,041	583,252

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	215,279	213,958
売上原価	152,670	151,092
売上総利益	62,608	62,866
販売費及び一般管理費	59,419	59,859
営業利益	3,189	3,006
営業外収益		
受取利息	26	21
受取配当金	627	518
諸債務整理益	350	324
その他	417	174
営業外収益合計	1,421	1,039
営業外費用		
支払利息	318	269
為替予約評価損	-	801
商品券等回収引当金繰入額	414	266
その他	443	598
営業外費用合計	1,177	1,935
経常利益	3,434	2,110
特別利益		
固定資産売却益	-	4,291
店舗等閉鎖損失引当金戻入額	-	203
投資有価証券売却益	7,361	-
特別利益合計	7,361	4,495
特別損失		
店舗等閉鎖損失	85	1,094
固定資産除却損	66	68
減損損失	85	4
進路設計支援費用	111	-
特別損失合計	349	1,167
税金等調整前四半期純利益	10,445	5,437
法人税、住民税及び事業税	2,401	1,262
法人税等調整額	2,018	1,071
法人税等合計	4,420	2,334
四半期純利益	6,025	3,102
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,025	3,102

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	6,025	3,102
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,629	△3,756
繰延ヘッジ損益	△5	△2
為替換算調整勘定	△0	32
退職給付に係る調整額	115	90
持分法適用会社に対する持分相当額	6	△420
その他の包括利益合計	△4,513	△4,056
四半期包括利益	1,512	△953
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,512	△953
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	スーパー マーケット 事業	イズミヤ 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	96,392	28,694	79,281	10,911	215,279	—	215,279
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	120	1,166	35	6,847	8,170	△8,170	—
計	96,513	29,861	79,316	17,759	223,450	△8,170	215,279
セグメント利益又は 損失(△)	3,143	256	△223	2,190	5,367	△2,178	3,189

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△2,178百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

当第1四半期連結会計期間から「企業結合に関する会計基準」等を適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首において、のれん517百万円及び資本剰余金269百万円が減少するとともに、利益剰余金が248百万円減少しております。また、当第1四半期連結累計期間のセグメント利益は、「その他事業」で9百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結会計期間から「企業結合に関する会計基準」等を適用した結果、当第1四半期連結会計期間の期首において、「その他事業」セグメントにおけるのれんが517百万円減少しております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	食品事業	不動産 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	95,429	103,261	2,285	12,981	213,958	—	213,958
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	129	1,496	2,760	7,956	12,342	△12,342	—
計	95,559	104,757	5,045	20,938	226,300	△12,342	213,958
セグメント利益	2,381	1,079	605	2,240	6,307	△3,301	3,006

(注) 1. セグメント利益の調整額△3,301百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「百貨店事業」、「スーパーマーケット事業」、「イズミヤ事業」、「その他事業」の4区分から、「百貨店事業」、「食品事業」、「不動産事業」、「その他事業」の4区分に変更しております。

この変更は平成28年度に実施するグループ再編に伴うものであり、従来の「スーパーマーケット事業」と「イズミヤ事業」の一部の会社を新たに「食品事業」として再編したほか、「不動産事業」を新設したものです。

主な変更の内容は、以下の通りです。

- ・「食品事業」については、平成28年4月1日付で設立した食品事業を統括する中間持株会社(㈱エイチ・ツー・オー 食品グループ)、従来の「スーパーマーケット事業」の各社、従来「イズミヤ事業」に含めていたイズミヤ㈱、㈱デリカ・アイフーズなどを移管しました。
- ・「不動産事業」については、従来の「その他事業」の一部の会社(㈱阪急商業開発など)、「イズミヤ事業」の一部の会社(㈱カンソーなど)を移管しました。また、平成28年7月以降、イズミヤ㈱の再編分割による不動産事業会社(㈱エイチ・ツー・オー アセットマネジメント)を移管する予定です。
- ・「その他事業」に、従来の「イズミヤ事業」の一部の会社(イズミヤカード㈱など)を移管しました。

なお、前第1四半期連結累計期間では、不動産事業に相当する売上高及び利益又は損失の金額を区分できないことから、変更後の報告セグメント区分により前第1四半期連結累計期間の情報を作成することは実務上困難であります。よって当第1四半期連結累計期間の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報を、変更前の報告セグメント区分により表示すると次のようになります。

(変更前の報告セグメント区分による情報)

(単位：百万円)

	百貨店 事業	スーパー マーケット 事業	イズミヤ 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	95,429	30,527	76,518	11,482	213,958	—	213,958
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	129	1,322	456	7,577	9,486	△9,486	—
計	95,559	31,849	76,975	19,060	223,445	△9,486	213,958
セグメント利益	2,381	179	1,117	2,326	6,005	△2,999	3,006

- (注) 1. セグメント利益の調整額△2,999百万円は、セグメント間取引消去であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「百貨店事業」セグメントにおいては、(株)阪急阪神百貨店・堺 北花田阪急の営業終了決定に伴い、当第1四半期連結累計期間に原状回復費用相当額として780百万円の減損損失を計上しております。なお、連結損益計算書においては、特別損失の店舗等閉鎖損失に含めて表示しております。

「食品事業」セグメントにおいては、イズミヤ(株)他について、店舗の閉鎖等に伴い、当第1四半期連結累計期間に252百万円の減損損失を計上しております。なお、店舗閉鎖に係る損失252百万円について、連結損益計算書においては、特別損失の店舗等閉鎖損失に含めて表示しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

4. 補足情報

株式会社阪急阪神百貨店の業績について

(1) 第1四半期累計期間の業績

(単位:百万円)

	第1四半期実績	
	金額	前年同期比
売上高	95,395	99.1%
売上総利益	23,846	98.8%
その他の営業収入	164	75.0%
営業総利益	24,010	98.6%
販売費及び一般管理費	21,661	102.3%
営業利益	2,348	73.9%

(2) 店別売上高

(単位:百万円)

	第1四半期実績	
	金額	前年同期比
阪急本店(注)1	48,384	100.5%
千里阪急	3,747	97.3%
堺 北花田阪急	1,845	90.7%
川西阪急	3,674	96.9%
宝塚阪急	1,789	99.8%
西宮阪急	5,683	99.4%
三田阪急	299	103.2%
博多阪急	9,967	101.7%
阪急メンズ東京	3,189	99.1%
阪急百貨店 大井食品館	1,077	98.7%
都筑阪急	1,136	99.7%
阪神梅田本店	12,856	95.6%
あまがさき阪神(注)2	603	73.4%
阪神・にしのみや	1,012	97.8%
阪神・御影	127	104.0%
合計	95,395	99.1%

(注)1 阪急メンズ大阪を含む

(注)2 平成28年1月11日 2階部分の営業終了

(3) 商品別売上高

(単位:百万円)

	第1四半期実績	
	金額	前年同期比
衣料品	29,297	96.3%
身の回り品	17,837	96.5%
家庭用品	3,148	101.9%
食料品	26,958	100.4%
食堂・喫茶	2,175	96.8%
雑貨	15,147	105.7%
サービス	427	89.2%
その他	402	102.1%
合計	95,395	99.1%